

bethel hospice letter autumn

ホスピスだより

tender loving care vol.18



(お花：ボランティア 福家 馨子)

松山ベテル病院ホスピス病棟

〒790-0833

松山市祝谷6丁目1229番地

TEL 089(925)5000

FAX 089(925)5599

ホームページ <http://www.bethel.or.jp/>



医療法人 聖愛会
松山ベテル病院

月下美人が咲きました。

ベテル病院から、一通の封筒が届きました。
その中に入っていた物は、クリアファイルに丁寧に入った月下美人の写真。
昨年1月7日から3月5日、短い期間でありながらベテル病院で精一杯生きた母の証。
元々は、奄美大島という鹿児島県と沖縄県の間にある大きな島生まれの母は、縁あって松山に来ることになりました。花が大好きでコーヒーが大好きで、責任感の強い母でした。

松山では、市駅前で喫茶スタークロスというお店をしていました。休み無しで早朝から深夜まで働く、母の背中と笑顔を見て育ちました。私は学校から帰ると、そこでご飯を食べたり宿題をしたり…。でも本当は母の傍に居たかったんだと思います。なぜなら私の宝箱の中のロケットペンダントの写真は、小さく切り取られた母の写真でしたから。亡くなる前に見せたかったと後悔しています。

本当に苦勞に苦勞を重ね、激動の人生を歩んだ母は、最期の場所にベテル病院を選びました。その2ヵ月という月日は短いようで内容は濃く、私には3年ぐらいの月日に感じるほどで…。

ベテル病院での時間の流れは穏やかで、今までの母の人生には無かった癒しの時間でした。陶芸教室やお茶会や、一番楽しみはチャペルでのイベント！！

お部屋に来てくださる、楽しい看護師の方たちとの笑いの絶えない語らいの時間。きめ細かいお掃除をしてくださるスタッフの方。そんなに上手くはないけど(笑)一生懸命マッサージをしてくださる若い男性スタッフ。愛犬をお部屋に入れさせていだいたり、写真をたくさん撮っていただいたり。

そして母の一番素敵な時間はきっと、母の息子である私の兄との時間だったので？と今思えるようになりました。最後の時も、長時間居た私ではなく、交代した兄との時間を選びました。

夕方5時、病室に持ち込んでいた大切な時計がオルゴールを奏でるのを聞きながら、母は旅立ちました。それは母が亡くなる5ヶ月前に鹿児島で亡くなった母の兄の時計。

仲が良かったので迎えに来てくれたのかな～と感じました。

昨年4月25日の母の誕生日にお墓は完成し、鹿児島の叔父も一緒にベテル病院と瀬戸内海を見下ろせ、鳥のさえずりが聞こえる場所で眠っています。

母の死は想像以上に辛く悲しいものでした。しかし自然の摂理といいますか…人間の最期はどうあるべきか…考えさせられ、学びました。

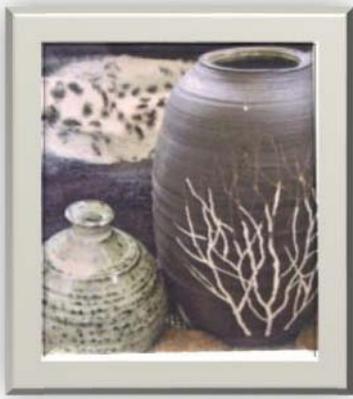
今、私が間違いなく思うことは『母は幸せだった』ということ。そして私も、母との素敵な時間を過ごせたことに感謝しています。

関係者の皆様、本当にありがとうございました。

昨年は咲かなかった月下美人。今年は家でも病院でも咲いて、一番喜んでるのは母でしょう。



(岡田 ちさと)



陶芸ボランティア再見

陶工 松尾 幸弘

松尾幸弘展

～人生70年の軌跡 2016～ より

私が、ベテル病院で陶芸のボランティアをはじめて、もう10年になります。10年ひとむかしと言いますが、月日の過ぎるのは早いものです。きっかけは、当病院の益田医師からの電話でした。「松尾さん、うちの病院で陶芸のボランティアやってもらえませんか」そんな電話だったように記憶しています。

この間に会った患者さんは、500名を超えていると思いますが、2年間ぐらい続いた人もいれば、たった1回で終わった人もいました。

患者さんは、陶芸を楽しむことだけでなく、中には家族へのメッセージとして残す作品もありました。手に力が入らない患者さんが、土を触り、何とか作ろうとします。その思いを少しでもかなえようと、私も懸命になりました。

その人は、それが最後の作品となりました。あとで「どんな思いで土をさわったのだろう」と思い、「一期一会」の意味を教えられた気がしました。

こうして10年にわたる、月1回の陶芸ボランティアを経験する中で、陶芸に対する私の考え方は変わってきました。それまでは、手ほどきを「教える」ということでしたが、この経験から、それぞれの人生を歩んできた患者さんの思いにどう応え、作品にしていくかになりました。陶芸が、私と患者さんとの共同作業になりました。

だから、余計な先入観をもたないようにし、患者さんとの出会いに「向かい合う」姿勢をとります。

患者さんが作られた作品は、翌日工房に持ち帰り、ゴツイところを削り、乾かし、素焼きして釉薬をかけ、本焼きに入ります。一緒に他の作品も合わせて釉薬付けしますが、それだけの作業でも窯に入れるまで、約4時間かかります。

焼き物は何かと手間のかかる作業が多いのです。けれども不思議と苦痛になりません。その人の思いを早くかなえたいという気持ちがさせるのでしょうか、不思議です。

また、手助けしてくれるチャプレンの中村さんや見守る看護師さんの優しい笑顔が、患者さんの雰囲気や和らげてくれます。

他の作品もありますので、出来るだけ早く焼き上げるように心掛けていますが、それでも患者さんの中には、自分が作った作品を見ずに逝かれるケースもあります。

また、出来上がった作品が、患者さんの手元に届き、見違えるようになって喜ばれたことを看護師さんから聞いた時、私も嬉しくなりました。

こうして「世界で一つだけ」の作品が、ベテル病院からも生まれます。みんなから「先生」と言われますが、本当に教えられるのは私なのです。



陶芸教室にて

大好きな夫へ



「次はどんなの作ろうかな」月に一回の陶芸の日を楽しみに、そんな会話が毎日ありました。お料理上手な事が分かる、クッキーの型ぬきを陶芸グッズとして準備し、その日も待っておられました。ニコニコしながら土をこね、型をぬき、模様を書いて、花になり・・・。次々作業は進んでいきました。きっと作りたい物は決まっていたんですね。

「はい。線引いてね。」と、見とれていた私の前に、次々と飾りが置かれていき、陶芸初体験の私でも出来るようにして下さった優しさを感じながら、一緒に作品を作らせて頂きました。

そして、こんな素晴らしい作品が出来上がりました。「何でも飾ったら良いわよね。」と言われていましたが、きっと大好きなご主人がお酒のおつまみを入れたりするのを想像しながら作られたのだと思います。大好きなやさしい笑顔が、優しい声が聞こえてきます。

(担当看護師：荒木 一恵)



ペンダントの贈り物



看護師さんのお導きでしょうか、妹の貴子が院内の陶芸教室へ出かけてお皿を作って楽しんだようです。その様子が写真になって病室に飾ってありました。出来上がりが楽しみね！妹は写真を指差しながら、土をいじる難しさや完成の時の喜びを話し合いました。写真で見たあのお皿が完成した旨のご連絡を頂きました。看護師事務所に駆けつけました。

包みを開けると、お皿とペンダントが3個。この3個のペンダントの存在にびっくりしました。陶芸先生のご配慮なのでしょうか。チェーン



を付けて下さっていました。二人の姉と妹への最後のプレゼントだったのですね。何も知らなかった私に看護師さんも「サプライズ・サプライズ」と一緒に驚き、喜んで写真を撮って頂きました。出来上がりを見る事もなく、病魔と闘いながら作ったお皿とペンダント。

時々身に着けて、妹貴子との思い出を大切にしたいと思います。

ベテル病院スタッフの皆様、ありがとうございました。 松本 久仁恵

この患者さまは、仲良し四姉妹でした。

歴史のお家を守られていたことから責任感が強く、残された姉妹へ最期の場面や葬儀、書類の事などきちんと整理されていました。最後のプレゼントとしておそろいのペンダントを造られた作品でした。そのことが私達の心に今も残っています。

ボランティア募集しています！！

病室へのティーサービスにご奉仕くださる方、病棟のお花やベランダの園芸のお世話をしてくださる方、チャペルでのレクリエーションにご協力くださる方等々。
※「聖愛会ボランティア説明会」(無料)の受講が必要です。心身ともに健康な方で、定期的・継続的に活動いただける方の問い合わせをお待ちしております。

TEL : (089) 925-5000 FAX : (089) 925-5599 E-mail : volunteer@bethel.or.jp
(ボランティア委員会 担当：森)



ホスピス献金をお願いします！！

ホスピス献金は、ホスピス病棟や難病病棟の援助等、(医)聖愛会の諸活動の援助の為に(医)聖愛会に寄付として頂いております。

皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

★現金送金★

〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地
松山ベテル後援会(松山ベテル病院内)

★郵便振替口座★

口座番号：01610-2-25364 名義：松山ベテル後援会

※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください。

編集後記

今年は、リオオリンピックが開催されました。選手は4年に一度の一瞬に全精力を注ぎ、一つのことに純粋に向かい合い輝いていました。ホスピスでは、日々尊い命の輝きを見せてくれます。毎日、今を大切にしなければいけないと痛感しています。

編集委員 坪田・松井・藤田・戸田